

たちばな雪乃・作
如月奏・絵

玉先生 治療室

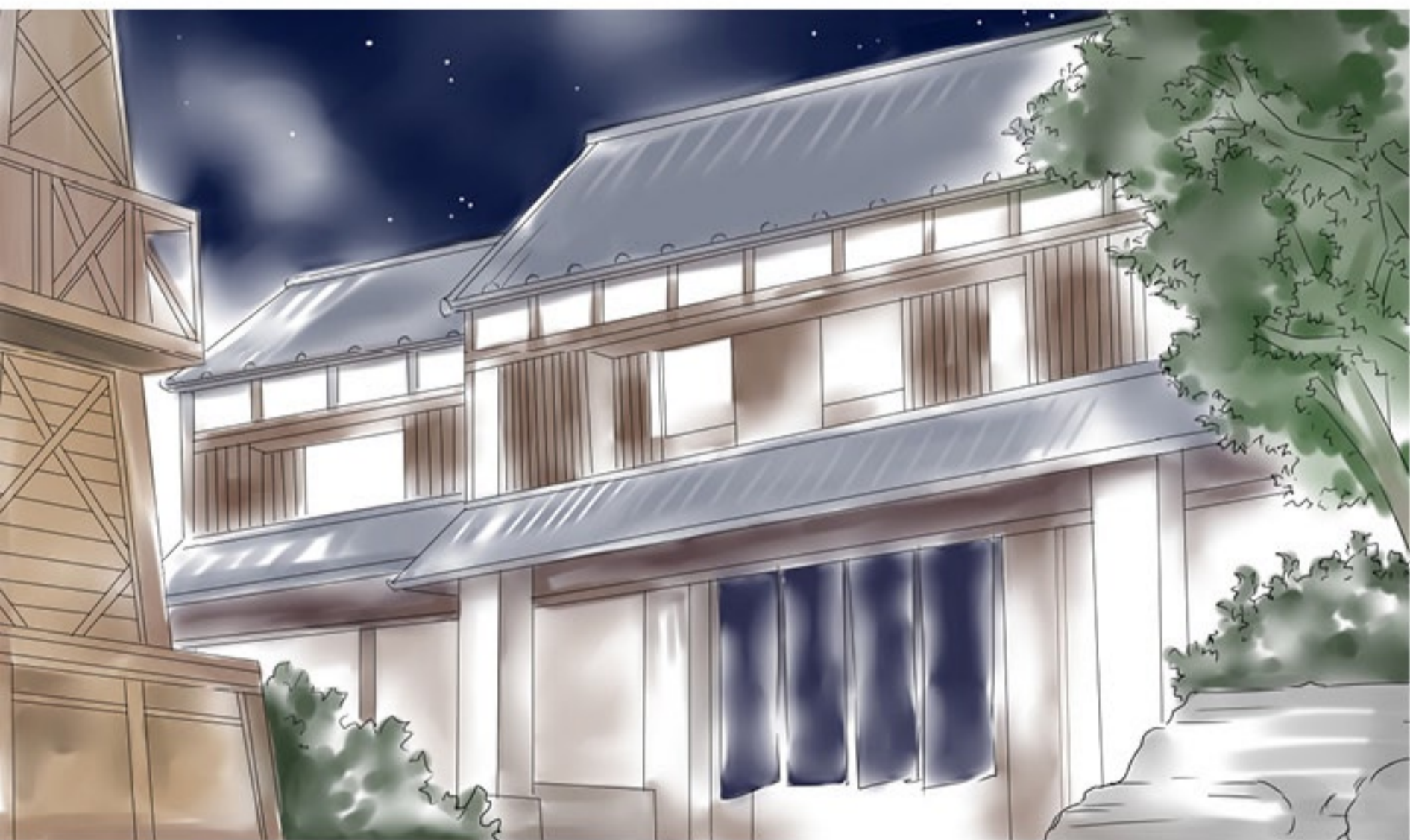
甘く癒される心とカラダ



王先生の治療室

〜甘く癒される心とカラダ

「うちは代々、女系じよけいなんだ。
……おまえも将来、お婿むこさんを
もらって、未来永劫みらいえいごう、この温泉
旅館を守っていくんだよ」



わたしの実家は、とある山あいの温泉街にある旅館『麗泉館』。

祖母の言葉は、わたしを縛りつける呪文じゅもんのようで、いくら一人娘でも言うなりになるなんて真まっ平ひらごめんだと思っっていました。

だけど、いざ家業がのつとられそうになつてみると……

「失礼。こちらの宿では、立ち
寄り湯をいただくことはできま
すか？」



わっ、素敵なお人たち……

いったい、どちらの宿に
お泊まりなのかしら……

秘密嚴守

「おや、覚えていてくださいますしたか。これはうれしい」

彼が、柔らかかに微笑ほほえみました。

忘れる人のほうが少ないと思う。
こんなにも眉目びもくしゅう秀麗うれいな人を……



「どうやらあなたは、心に憂いうれがあるようですね」

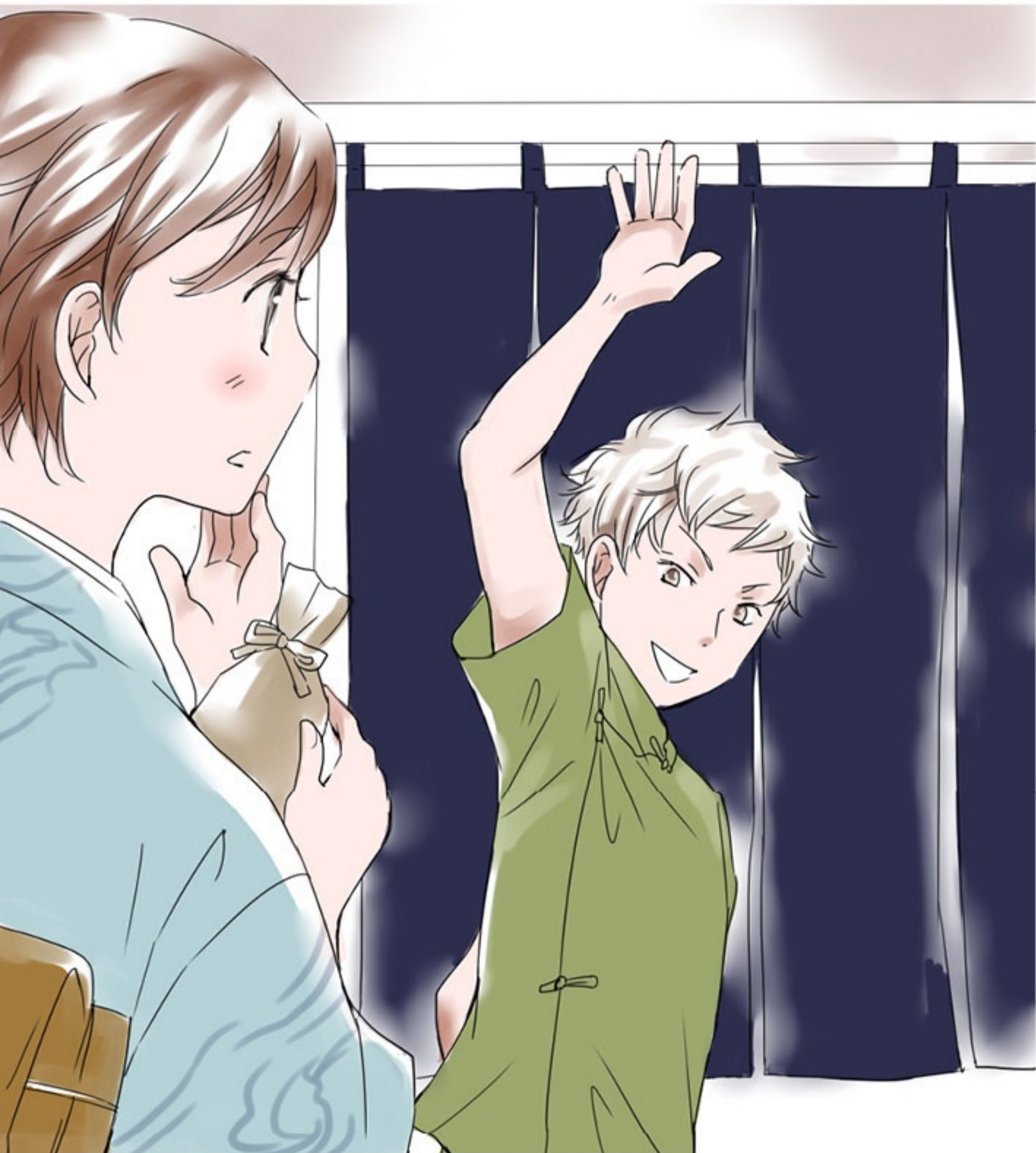
なぜ、わかるの？

「しかし、憂いはともかく、温泉宿の若女将わかおかみが、むくみと冷えにお悩みとは」

どうして、そんなことまで……



「失礼、言い過ぎました。機嫌きげんを直して、お茶でも召めし上がれ。この茶は、むくみがひどいときに飲むと良いのですよ。ストレスで胃が重いときにも」



「王^{ワン}先生のお使いで来ましたア
〜。ほい、これ。あんたによく
効^{こう}く黄^{ぎん}山^{もう}毛^{ほう}峰の茶葉！」

「あつ、待って！　せめて連絡
先を……」

「縁^{えん}がありや、また会えるさー！」



「おや、またしても奇遇きぐうですね」

茶髪の少年たちを連れだした彼が、
優雅ゆうがに微笑みました。

「どうやら、ご縁があるようだ」

招まねかれるままに、彼らが逗留とうりゆうし
ている貸別荘にお邪魔じやましました。

王先生が、まるで大切な姫君を誘うように、わたしに手を差し伸べてくれます。

「さあ、まいりましょう……、あなたのための食卓です」

いいのかな、お言葉に甘えて……さりげなく肩を抱き寄せられてドキドキしました。



王先生の胸元からは、ほのかに鼻をくすぐる白檀びやくだんの香り。

疲れたとき、頼れる誰かに、い
つもこんなふうには、やさしく、
あたたかく包み込んでほしい
……

王先生にそうしてほしいと望む
のは叶かなわぬ夢かしら……？



「はも鱧の湯引き、
ばいにく梅肉添えです」

「鱧は胃腸を滋養^{じよう}し、利尿^{りによう}する作用があるので、むくみによいのですよ」

さあ、召し上がれ……



「酔^よってるの……?？」

耳元で低く響いた先生の声。

酔ったふり、かも……

もっと近づきたい。

抱きしめられたい。

キスしたい、この人と……



鄙^{ひな}びた温泉旅館に、
突^{とつじよ}如現れた美貌^{びぼう}の中医師^{ちゆういし}……

彼は宮廷きゆうていに仕えた食医しょくいである
王一族ワンの末裔まつえい……

そして歴史の陰かげに葬ほうむられた
性医せいでもあった。

「王先生、あなたを愛してもいいですか……？」

ミステリアスな王医師が、

本格薬膳やくぜんと官能的なひとときで、

女性たちの身も心も癒いやしていく
切なく甘いラブストーリー。



「私が全身ぜんしん全霊ぜんれいをかけて、
あなたを治して差し上げます」

王先生が教えてくれる

和食の簡単レシピ付き！

冷えとむくみをとる

小豆粥



長岡桃白（国際中醫師・国際中医薬膳師）／監修

作中に登場する効果・効用には個人差があります。

漢方薬等を服用する場合には、必ず専門の医師・薬剤師にご相談下さい。

『王先生の治療室
～甘く癒される心とカラダ
〈和の薬膳レシピ付〉』

たちばな雪乃／作
如月奏／絵

©2015 たちばな雪乃 / 如月奏
©parsola inc.